



研究課題名 地域歴史資料学を機軸とした災害列島における 地域存続のための地域歴史文化の創成

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

おくむら ひろし
奥村 弘

研究課題番号：19H05457 研究者番号：60185551

キーワード：地域歴史資料学、地域歴史文化

【研究の背景・目的】

1995年の阪神・淡路大震災において、日本ではじめて被災歴史資料と大規模自然災害の様相を伝える災害資料の保存活用についての実践的な研究が始まり、この観点から本研究代表者は、はじめて地域歴史資料論を提起した。その後、頻発する地震や大水害、東日本大震災等を通じて日本各地で実践的研究が展開し、地域の記憶継承の危機に対応し、大規模災害から歴史資料と地域歴史文化を守り、未来に伝える新たな学問領域として「地域歴史資料学」を構築した。本研究は、これらの成果を踏まえ、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害等により危機に瀕している日本の地域存続の基盤となる、新たな地域歴史文化創成のための実践的研究領域を確立し、国際的な学術研究プラットフォームを構築することを目的としている。

【研究の方法】

地域の記憶を継承する新たな地域歴史文化創成のための実践的な研究を具体的に展開するため、以下の三つの研究領域を設定し、各領域の独自の研究課題を深化させるとともに、歴史資料保存の担い手である地域住民を核としつつ、領域相互に密接に関連付けながら研究を展開することとする。

(A) 地域歴史資料継承領域：地域住民と共同した地域歴史文化継承のための新手法の開発とその普遍化をはかる。

(B) 地域歴史資料インフラ構築領域：(A) 領域の成果を活用しながら、研究者・地域住民が地域歴史資料を継承するためのデータインフラ構築と、それらの国際標準化のための研究を行う。

(C) 災害文化を内包した地域社会形成史研究領域：

(A) (B) 両領域の成果を基礎に、災害の記憶と記録を蓄積する文化を地域歴史文化に内包させた新たな地域社会形成史の研究を通じて、古代から近現代に至る通史的歴史像の提示を目指す。



写真：地域と研究者による地域歴史遺産調査（兵庫県 朝来市）

【期待される成果と意義】

- 1) 人間の持つ文化とは何かという人文科学についての根源的な問いに対して、人間の持つ過去の記憶と記録を未来に引き継いでいくという歴史文化の領域から迫ることで新たな文化を捉える学術領域を確立するものであり、人文科学研究の発展に資する。
- 2) 地域存続の基盤となる地域歴史文化創成という日本社会における喫緊の課題に対して、これまでの大規模自然災害時対応における実践的研究としての歴史資料学を軸とすることで、文化創成という不定形の領域が具体的な対応を可能として、高い学術的な意義を持つ。とくに地域住民の能動的な文化創成能力の拡大と人文社会諸科学研究の情報基盤構築とを連動させる方法論は、人文社会科学の社会的な役割を具体的な形で提示する新たな研究手法となる。
- 3) 災害が多発する日本列島において、災害の記憶と記録を蓄積しながら地域社会を形成してきた日本の特質を踏まえた、災害文化を内包した地域社会形成史の通史的提示は、これまで行われていない。よってその提示は、日本における人々の生存のあり方を歴史的に深める点で極めて重要な意義を持つ。
- 4) 地域住民と研究者が地域歴史資料を継承するために必要なデータとはいかなるものであるのかという新たなコンセプトに基づくデータ概念設計を行い、それを国際標準化することで、データインフラが十分整備されてこなかった地域社会の歴史的研究手法の革新をはかる。さらに、このデータを活かした歴史的な災害データの発見と確度の飛躍的向上をはかり、災害科学の発展に寄与する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 『大震災と歴史資料保存：阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』奥村弘 著 吉川弘文館 2012
『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』奥村弘 編 東京大学出版会 2014
『地域歴史遺産と現代社会（地域づくりの基礎知識 1）』奥村弘ら編 神戸大学出版会 2018

【研究期間と研究経費】

令和元年度－令和5年度
316,300 千円

【ホームページ等】

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>
(神戸大学大学院人文学研究科
地域連携センターウェブサイト)